

大館桂桜高等学校

図書館だより

No. 7

2019. 7. 16

担当 櫻庭芳枝



もうすぐ夏休みですね。せっかくの長期休みですので、自分の趣味や興味関心のあること、将来につながるなどを使って有意義に過ごせるように、課題はためずに早めにやっておくことをおすすめします！学年や科によって課題はさまざま出ていると思いますが、1・2年生には例年、読書感想文を書いてもらっています。そのうちの何作品かを読書感想文コンクールに応募します。原稿用紙5枚です。がんばってください。なお、あたりまえのことですが、ネットで見た感想をそのまま写すようなことはしてはいけません。盗作になります。自分のことばで、感じたことを素直に書きましょう。

本は自由に選んだものでいい（ただし、教科書・雑誌・漫画等は除く）のですが、何を讀んだらいいかわからない人は課題図書にチャレンジしてみましよう。

今年度の課題図書（高等学校の部）

この川のむこう
に君がいる

濱野京子 著

理論社

ザ・ヘイト・
ユー・ギヴ

アンジー・トーマス 著

岩崎書店

ヒマラヤに
学校をつくる

吉岡大祐 著

旬報社

『この川の向こうに君がいる』 濱野京子 作

災害が起きたとき、「なぜ」と問いかける人が生まれる。なぜ自分がと。震災後、新たな地で高校生活を始めた梨乃の16歳の心の軌跡。

『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ』 アンジー・トーマス 作 服部理佳 訳

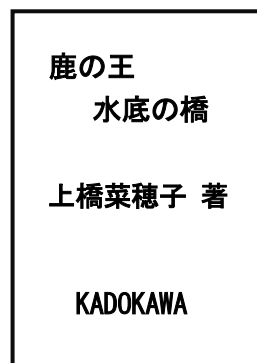
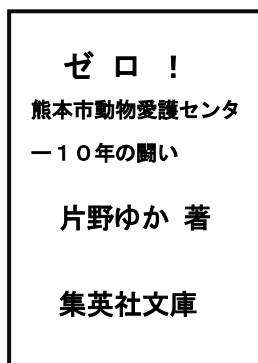
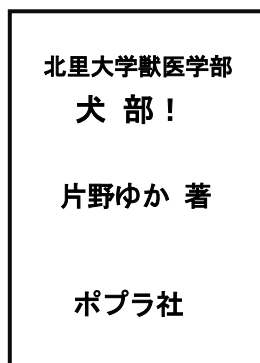
白人警官が無抵抗の黒人少年を射殺した。真実が歪められる中、目撃者の女子高生が立ち上がる。映画化もされた米国の社会問題に迫る話題作！

『ヒマラヤに学校をつくる』

カネなしコネなしの僕と、身捨てられた子供たちの挑戦 吉岡大祐 作

貧しいけれどきつとここは世界一幸せな学校。人身売買、児童労働…貧困のネパールでゼロから学校づくりに挑んだ若者の感動の記録。

～私が最近読んだ本～（いずれも新着図書です。）



『鹿の王 水底の橋』

上橋菜穂子さんの、本屋大賞1位となった『鹿の王（上・下）』の続編です。現実の世界でいうところの西洋医学と東洋医学や民間療法など、立場の違う医療をめぐり、医師ホッサルが複雑な問題に巻き込まれていきます。政権争いや御曹司であるホッサルの結婚問題までがからみあい、どうなることかと気になって一気に読みました。前作を読んでいれば、上橋ワールドともいべき独特な物語世界に入り込みやすいと思いますが、単独で読んでも特に困ることはありません。ただし、人物関係が複雑で名前も独特なので、この人はどっちに属するどんな立場の人なのか、時々最初の人物紹介に戻りながら読みました。そういう点が気にならない人におすすめです。

『北里大学獣医学部 犬部！』・『ゼロ！ 熊本市動物愛護センター10年の闘い』

ノンフィクションライター片野ゆかさんの本です。私は犬を飼っている人のブログなどをよく見るのですが、片野さんも保護犬を飼っていて、その犬の様子などを発信しているので、以前から知っていました。保護犬とは、捨てられたり飼い主に飼育放棄されたりした犬で、そのままでは殺処分という運命が待っています。そういう犬を引き取り、飼い主を探す活動をしているのが「犬部」で、殺処分を行う行政側の「動物愛護センター」が殺処分をゼロにするまでの道のりを描いたのが「ゼロ」です。犬は人間に無償の愛をくれます。そんな犬を捨てる人間がいるなんて私には信じられないのですが、現実には身勝手な無責任な人もいます。そういう人もいれば、この本にあるように、なんとかして命を救おうと奮闘する人もいます。その点では、人間もまだ捨てたものではないと言えるのでしょうか。日本は動物愛護に関してはまだまだ、先進国とは言えない状況です。早く、日本全国で殺処分ゼロ（ただ保護団体が引き取ればいいのではなく、捨てられる犬がいなくなるような状況）が達成できるようにと願っています。



「捨てないでね。」



「僕、怪我しちゃった。」

（うちの子たちです）